

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1871700397		
法人名	社会福祉法人坂井来春会		
事業所名	グループホームさかい(東ユニット)		
所在地	福井県坂井市坂井町折戸1-58		
自己評価作成日	令和 5年 8月 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和 5 年 9 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は老健との併設の施設の為、諸事情で退所等になる時、老健の方に申込み希望し、空きが出れば入所することが出来る事が「安心だ」と言われる。毎日の日課で、朝のリハビリ体操をした後は椅子からの立ち上がり訓練、歩行訓練、嚥下体操等をして筋力低下の防止に努めている。老健のリハビリの方の指示を受けることができ、ケアプランに取り組み自立へと頑張っていきます。また、午後からは、利用者様の希望を取り、カラオケなどを行っています。季節に応じて通年は、外へ出かけていますが、施設敷地内には桜の木があり、コロナウイルスの感染予防の為、施設内からの桜の鑑賞を行っています。機能訓練は専門職と月1回連携を図り、協力して行っている。

事業所は穏やかな田園風景の静かな環境の中にあり、近くにはゆりの里公園がある。事業所は法人理念を基に基本理念とケアの方針を掲げ、職員がいつでも見ることができるよう、トイレ内にも掲示している。特に家庭的な雰囲気大切にしており、職員は統一した制服を着用せず、私服にエプロン着用で会話し、家族的な温かい雰囲気の中で支援している様子が見られた。法人が運営する介護老人保健施設、短期入所療養介護、通所リハビリテーション、通所介護が併設しており、複合施設の利点を活かして協力体制を整備している。現在もコロナ感染対策で、利用者は病院受診以外に外出する機会がないため、ストレスがたまらないよう、ユニット間で交流したり、多彩な行事を取り入れたっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りにおいて、管理者と職員全員で地域密着の意義を踏まえたグループホームの基本理念・方針を唱和し、基本理念・方針の共有化を図っている。	法人理念を基にした事業所理念がある。理念を基にケアの方針4項目を掲げている。職員は毎朝ミーティング時に唱和している。毎年個人目標を立て、年度末に見直している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流については、新型コロナウイルスの感染予防の為に、行っていない。	町内会に加入しており、区長が地域の情報を持ってきた際に情報交換している。大関小学校の児童が収穫した新米を届けてもらい、利用者が食べている。児童に感謝の気持ちを伝える方法を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室等は、新型コロナウイルスの感染予防の為に、開催していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に2回運営推進会議の資料作成して、運営委員に送付し、運営上の問題点や事故があった場合はその情報を公開し、共有化を図っている。	2か月に1回の運営推進会議は、書面で開催している。メンバーに会議内容を報告し意見を書いてもらう依頼をしているが、返信があったのは1件のみだった。	運営推進会議の内容について、構成メンバーから意見をもらえるよう工夫し、メンバーが積極的に関わられるよう働きかけることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故の報告や、運営推進会議等を通じて行政とのつながりを持ちつつ協力関係を構築している。	市職員が運営推進会議のメンバーになっているため、資料を送付し、意見を聴取している。地域包括支援センターとはケースについて、入所状況を伝えている。また利用状況や事業所退去後の情報提供等により協力関係が継続的に築けるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関については、安全の確保のためやむを得ず開錠していないが、それ以外の点については、自由を束縛すると認められる処遇は行っていない。	法人全体で身体拘束適正委員会を設置し、医師や看護師長、介護長が講師となり年2回勉強会を開催している。参加できなかった職員には書面で研修内容の確認を促している。内部研修で拘束の基本的な考え方を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	基本理念通りのことを実践している。特に言葉遣いを含め管理者の虐待に対する方針を職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修により、成年後見人制度の仕組みや知識を深める機会を多く設けるよう今後も取り組む。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に、重要事項説明書・契約書を提示してご利用者様、ご家族様に説明し、ご理解を得たうえで利用契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表の方が入っており、その意見等によりサービスの見直しを図っている。オンライン面会等により家族の方に日々の運営への協力をお願いしている。	利用者の写真や様子を掲載した広報紙を、2か月に1回家族に送付している。また、家族に利用者の様子を伝える時に意見、要望を聞いている。通院の来所時、面会時、相談時を利用して話を聞き、職員間で共有し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務遂行中、日常的に職員の意見・提案等を受け入れ、良いものは取り入れている。休暇等の要望はできる限り実現できるよう調整している。毎日の申し送り時にも意見や要望を聞いている。	毎月、業務連絡やミーティングで出された職員の意見や提案は、主任、ケアマネジャーがまとめて管理者に報告している。管理者は職員と一緒に運営について話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は週2日程度グループホームに来て職員の勤務状況を把握しつつ職員が積極的に向上心を持って働けるよう職員配置等に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修には積極的に参加している。また、内部研修も設け計画的に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの感染予防の為、外部研修には参加することが少なくなってきているが、電話等での連絡により、情報交換しながら交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン内容を把握し、利用者の方をよく観察しコミュニケーションを図るようにしている。同じ目線で笑顔で話を聞くようにし、利用者が安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時点でご家族様の話をよく伺い、不安の解消に努めている。行事写真等をホーム内に掲示し生き生きと暮らしている様をご家族に見ていただき不安の解消を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員によるご家族とご利用者に対する聞き取りに十分な時間を割くなど、初期段階で丁寧な対応をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を、介護される一方の立場に置かずに、本人が自然な生活を享受できるように常に寄り添い、お互いに信頼できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との面会は直接は出来ない状態が続いているが、オンラインにより会話の機会を作るように働きかけている。その際には近況をご家族にお伝えするとともに、ご利用者との話し合いの場を持てるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防の為、支援は難しくなっている	外出の機会は制限しているが、事業所1階のホールに面会場を設け、友人や家族との関係が途切れないようにしている。法事、葬儀の連絡があれば参列できるよう支援している。年賀状、手紙のやり取りが継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、誰もが孤立しないよう皆が同じ場所に集まる等の機会を多く設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所すると入所中ほどの関係を保つことは困難であるが、再入所の意志あるときなどはできる限りご家族と本人の意思を尊重し対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思い・意思は日々の生活の中で把握し、実現できるように努めている。これは最優先事項として位置づけている。	日々の関わりの中で声掛けを行うと共に、行動や表情などから意向の把握に努めている。毎日昼食後に利用者とは話す時間をもち、思いを聴き取っている。利用者から把握が困難な場合は、家族から聴いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約段階で、担当の介護支援専門員がその把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の現状を常に把握し臨機応変に対応している。毎日の申し送り等で全職員が情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者(介護支援専門員)が職員から意見を聞いて介護計画を策定。これに基づき担当職員が日々の記録とモニタリングを行っている。	本人の意向を確認し、家族や利用者に関わっている言語聴覚士、理学療法士から意見をもらい計画を策定している。毎日、計画実施状況や気付き等を申し送りで話し合い職員間で情報共有している。毎月のミーティングでモニタリングを行い、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の状況等は細かく個別日誌に記録し、申し送り等で日々の記録とモニタリングを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医や歯科医について、往診の援助を行うとともに、ご利用者の意向がある場合、母体施設のリハビリ等のサービスを受けられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防の為、地域資源の活用はしていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後もこれまでのかかりつけ医に受診することについては本人の意思に任せている。受診時にご家族の同行が基本であるが、無理な場合は職員が付き添いや訪問診療等を行い、ご家族との連絡を密にしている。	かかりつけ医は自由に選択できる。受診は、家族が同行している。病院への情報提供は電話か書類でソーシャルワーカーを介して医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職員の指導により日常の健康管理に努めている。夜間等看護師がいない場合は母体施設の看護職員に支援を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、家族と連絡を密にとり早期退院に向けた話し合いの場を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と本人の意思を優先しているが、状態が重度化したり終末期には併設の老健に移っていただいている。	入居時に重度化・終末期に対する説明を家族に行っている。状態が変化してきた際には、随時家族と今後の方針や方向性について相談する機会を持ち、更に事業所での入浴が困難になった場合は家族と相談し、病院や介護老人保健施設への移行を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員の指導により、緊急時の応急処置を身につけている。(救命講習を終了している)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を地域消防署の協力を得て年2回実施している。また、河川氾濫を想定した新館2・3階への避難訓練も実施。	6月に火災を想定した避難訓練を消防署指導で実施している。水害、地震を想定した訓練も行っている。マニュアルを整備しているが職員に周知浸透されていない。事業継続計画は整備中である。	地域住民と連携して防災に取り組む協力体制を築き、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ごく普通に自然な生活が享受できるように、特にご利用者に対する職員の言葉遣いに注意し穏やかな日々の営みができるよう配慮している。	尊厳を大切に利用者の意向に沿った支援を行うため、虐待防止委員会を月1回、接遇向上委員会を3か月に1回開催して検討している。言葉遣いについての研修では職員がペアで、お互い気づいた点を話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自然な生活を確保する要件として、本人の希望や思いが実現できることが不可欠であるため、この点について特に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者お一人おひとりのペースに合わせた個別の対応により支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な好みの洋服を自由に着ていただいたり、整髪・整容の機会を持っていただき楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や後片付けについて、本人の体力などに応じて無理がない範囲で職員と一緒にしている。	利用者は馴染みの茶碗、箸、湯呑を使用している。職員と利用者が一緒にテーブルを囲んで、同じ食事を食べている。施設の畑で栽培した野菜をメニューに取り入れるなど、楽しく食事ができる雰囲気作りを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録されている。献立のカロリー計算は管理栄養士により管理されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。その詳細を記録し清潔保持に役立てている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、お一人おひとりに応じた支援を行っている。また、排泄介助の際には個人の尊厳と羞恥心に配慮した言葉かけを行っている。	トイレで排泄できることを基本としている。排泄の記録表を活用し、個々の利用者の排泄パターンに合わせ、自尊心に配慮した、さりげない声掛け誘導を行っている。夜間は、センサーマットを使用した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給と医師の処方による服薬により、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はお一人おひとりの希望を聞いて入浴時間帯を対応することはできないが、ある程度規則性を以って実施している。一日のリズムが保てる範囲内で個々の希望に沿った支援も重要と考えている。清拭(毎朝)	利用者は日曜日以外の午前中に週2回入浴できる。準備から入浴、洗濯まで一人の職員が対応し、会話をしながら利用者のペースに合わせて支援している。入浴日以外の日には清拭行為を行い、身体清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動、作業等により、日常生活の活性化を図り、安眠へとつなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ファイルに記載されている服薬の内容や副作用について理解し、処方箋に従って服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報やご利用者とのコミュニケーションの中で、調理・裁縫等日常生活の中に取り入れた活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防の為縮小しており、施設の周りを散歩している。	コロナ禍で外出する機会がなく、屋内を歩くだけではストレスがたまるので、職員は利用者2、3人と施設周辺を散歩し、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できないご利用者が多いことから、基本的には職員がお金をお預かりしている。必要に応じてお預かりした中から支払いしている。買い物は本人同意の上職員が支払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけていただいている。手紙等も自由に出していただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の作品を展示したり、季節の花を飾ったりして季節感を取り入れている。	壁に季節感のある手作りの作品や行事の思い出の写真を展示している。畳コーナーの縁に腰掛けたり、ソファでゆったりと過ごすことができ、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で話ができるよう椅子を用意したり、座席の配置換えも必要に応じて行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの品を自由に居室に置いていただき、自然な日々を送れるように配慮している。	ベッド、整理タンス、押し入れ、洗面所を設置し、利用者の馴染みの物を持ち込める。壁には個性的な作品や手作りカレンダーが飾られ、自分好みの空間になっている。窓が大きく、四季折々の田園風景が眺められ、室内で花見もできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、食堂のご自分の場所については、ご利用者の名前を付け分かりやすくしている。自分でわかることは自身で行うようにしており、職員は安全確保のため見守りによる支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1871700397		
法人名	社会福祉法人坂井来春会		
事業所名	グループホームさかい(西ユニット)		
所在地	福井県坂井市坂井町折戸1-58		
自己評価作成日	令和 5年 8月 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 5年 9月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設は老健との併設の施設の為、諸事情で退所等になる時、老健の方に申込み希望し、空きが出れば入所することが出来る事が「安心だ」と言われる。毎日の日課で、朝のリハビリ体操をした後は椅子からの立ち上がり訓練、歩行訓練、嚥下体操等をして筋力低下の防止に努めている。老健のリハビリの方の指示を受けることができ、ケアプランに取り組み自立へと頑張っていきます。また、午後からは、利用者様の希望を取り、カラオケなどを行っています。季節に応じて通年は、外へ出かけていますが、施設敷地内には桜の木があり、コロナウイルスの感染予防の為、施設内からの桜の鑑賞を行っています。機能訓練は専門職と月1回連携を図り、協力して行っている。</p>

東ユニットと同様

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りにおいて、管理者と職員全員で地域密着の意義を踏まえたグループホームの基本理念・方針を唱和し、基本理念・方針の共有化を図っている。	東ユニットと同様	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流については、新型コロナウイルスの感染予防の為に、行っていない。	東ユニットと同様	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室等は、新型コロナウイルスの感染予防の為に、開催していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に2回運営推進会議の資料作成して、運営委員に送付し、運営上の問題点や事故があった場合はその情報を公開し、共有化を図っている。	東ユニットと同様	東ユニットと同様
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故の報告や、運営推進会議等を通じて行政とのつながりを持ちつつ協力関係を構築している。	東ユニットと同様	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関については、安全の確保のためやむを得ず開錠していないが、それ以外の点については、自由を束縛すると認められる処遇は行っていない。	東ユニットと同様	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	基本理念通りのことを実践している。特に言葉遣いを含め管理者の虐待に対する方針を職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修により、成年後見人制度の仕組みや知識を深める機会を多く設けるよう今後も取り組む。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に、重要事項説明書・契約書を提示してご利用者様、ご家族様に説明し、ご理解を得たうえで利用契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表の方が入っており、その意見等によりサービスの見直しを図っている。オンライン面会等により家族の方に日々の運営への協力をお願いしている。	東ユニットと同様	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務遂行中、日常的に職員の意見・提案等を受け入れ、良いものは取り入れている。休暇等の要望はできる限り実現できるよう調整している。毎日の申し送り時にも意見や要望を聞いている。	東ユニットと同様	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は週2日程度グループホームに来て職員の勤務状況を把握しつつ職員が積極的に向上心を持って働けるよう職員配置等に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修には積極的に参加している。また、内部研修も設け計画的に実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの感染予防の為、外部研修には参加することが少なくなっているが、電話等での連絡により、情報交換しながら交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン内容を把握し、利用者の方をよく観察しコミュニケーションを図るようにしている。同じ目線で笑顔で話を聞くようにし、利用者が安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時点でご家族様のお話をよく伺い、不安の解消に努めている。行事写真等をホーム内に掲示し生き生きと暮らしている様をご家族に見ていただき不安の解消を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員によるご家族とご利用者に対する聞き取りに十分な時間を割くなど、初期段階で丁寧な対応をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を、介護される一方の立場に置かずに、本人が自然な生活を享受できるように常に寄り添い、お互いに信頼できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との面会は直接は出来ない状態が続いているが、オンラインにより会話の機会を作るように働きかけている。その際には近況をご家族にお伝えするとともに、ご利用者との話し合いの場を持てるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防の為、支援は難しくなっている	東ユニットと同様	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、誰もが孤立しないよう皆が同じ場所に集まる等の機会を多く設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所すると入所中ほどの関係を保つことは困難であるが、再入所の意志あるときなどはできる限りご家族と本人の意思を尊重し対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思い・意思は日々の生活の中で把握し、実現できるように努めている。これは最優先事項として位置づけている。	東ユニットと同様	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約段階で、担当の介護支援専門員がその把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の現状を常に把握し臨機応変に対応している。毎日の申し送り等で全職員が情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者(介護支援専門員)が職員から意見を聞いて介護計画を策定。これに基づき担当職員が日々の記録とモニタリングを行っている。	東ユニットと同様	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の状況等は細かく個別日誌に記録し、申し送り等で日々の記録とモニタリングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医や歯科医について、往診の援助を行うとともに、ご利用者の意向がある場合、母体施設のリハビリ等のサービスを受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防の為、地域資源の活用はしていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後もこれまでのかかりつけ医に受診することについては本人の意思に任せている。受診時はご家族の同行が基本であるが、無理な場合は職員が付き添いや訪問診察等を行い、ご家族との連絡を密にしている。	東ユニットと同様	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職員の指導により日常の健康管理に努めている。夜間等看護師がいない場合は母体施設の看護職員に支援を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、家族と連絡を密にとり早期退院に向けた話し合いの場を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と本人の意思を優先しているが、状態が重度化したり終末期には併設の老健に移っていただいている。	東ユニットと同様	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員の指導により、緊急時の応急処置を身につけている。(救命講習を終了している)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を地域消防署の協力を得て年2回実施している。また、河川氾濫を想定した新館2・3階への避難訓練も実施。	東ユニットと同様	東ユニットと同様

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ごく普通に自然な生活が享受できるように、特にご利用者に対する職員の言葉遣いに注意し穏やかな日々の営みができるよう配慮している。	東ユニットと同様	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自然な生活を確保する要件として、本人の希望や思いが実現できることが不可欠であるため、この点について特に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者お一人おひとりのペースに合わせた個別の対応により支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な好みの洋服を自由に着ていただいたり、整髪・整容の機会を持っていただき楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や後片付けについて、本人の体力などに応じて無理がない範囲で職員と一緒にしている。	東ユニットと同様	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録されている。献立のカロリー計算は管理栄養士により管理されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。その詳細を記録し清潔保持に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、お一人おひとりに応じた支援を行っている。また、排泄介助の際には個人の尊厳と羞恥心に配慮した言葉がけを行っている。	東ユニットと同様	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給と医師の処方による服薬により、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はお一人おひとりの希望を聞いて入浴時間帯を対応することはできないが、ある程度規則性を以って実施している。一日のリズムが保てる範囲内で個々の希望に沿った支援も重要と考えている。清拭(毎朝)	東ユニットと同様	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動、作業等により、日常生活の活性化を図り、安眠へとつなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ファイルに記載されている服薬の内容や副作用について理解し、処方箋に従って服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報やご利用者とのコミュニケーションの中で、調理・裁縫等日常生活の中に取り入れた活動を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウイルス感染予防の為縮小しており、施設の周りを散歩している。	東ユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できないご利用者が多いことから、基本的には職員がお金をお預かりしている。必要に応じてお預かりした中から支払いしている。買い物は本人同意の上職員が支払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけていただいている。手紙等も自由に出していただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の作品を展示したり、季節の花を飾ったりして季節感を取り入れている。	東ユニットと同様	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で話ができるよう椅子を用意したり、座席の配置換えも必要に応じて行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの品を自由に居室に置いていただき、自然な日々を送れるように配慮している。	東ユニットと同様	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、食堂のご自分の場所については、ご利用者の名前を付け分かりやすくしている。自分でわかることは自身で行うようにしており、職員は安全確保のため見守りによる支援を行っている。		